

特別経費 「JICA、国内五女子大学コンソーシアムとの連携協力による途上国女子教育・乳幼児保育の人材育成の支援強化充実」の取り組みに関する評価について

お茶の水女子大学は、これまで先進的かつ革新的な国際協力事業に取り組んできた。その最たる事例が5女子大学コンソーシアムにより実施したアフガニスタン支援である。この協力は現地での貢献もさることながら、この事業実施を通じて日本の大学が独自のリソースを活用し、どのような国際貢献が可能なのか、国際協力の一つのあり方を明確に示している。そして、そのような可能性を積極的に情報発信してきた。

このような事業実施は、日本における国際協力の研究や教育に対しても相乗的な効果をもたらしている。国際協力分野の教育研究は、実践を伴わなければ、社会から孤立した役に立たない学問になってしまう。広島大学、大阪大学なども、このようなお茶の水女子大学の取り組みに協力、協働する機会を得ることにより、新たな国際協力の研究や実践のあり方を模索してきた。

これまでの地道なお茶の水女子大学の取り組みは、一大学の国際協力事業を推進してきただけではない。そのような事業に参加した国内外の大学は、それに関わる過程で得た経験を各大学に持ち帰り、そこで構築された広範なネットワークを活用することにより、新たな国際協力を実施する契機にもなっている。

このような事業が継続的に実施されることは、日本の大学にとって非常に重要なことであり、また日本の知的国際貢献としても意義深いものである。

大阪大学大学院人間科学研究科
教授 澤村 信 英